

# 秋田地方本部緊急声明を發出!!

団体交渉を職場から支えるために  
組合員との議論を深めよう!!

組合員の「生活実感」に重きを置き、職場から中央本部と共に

たたかいをつくり出す JR 東労組秋田地方本部緊急声明

コロナ禍において日々安全・安定輸送に尽力し、JR 東労組運動を職場から取り組んでいただいている組合員の皆さんに敬意を表します。

6月10日、中央本部は申13号「2021年度夏季手当等に関する申し入れ」の第3回団体交渉を行い、会社から2.0ヶ月という回答が出された。組合員の想いは、生活における不安や厳しさが日増しに大きくなっており、到底納得することはできない。

『仕事の質が濃くなり精神的・肉体的にも負担が増えているため満足いく回答が必要だ』

『住宅ローンや養育費等出費が多いため、社員の頑張りに報いてもらいたい』

『社員・家族の幸福は働き方の変化よりも安定した生活が営めることであり、そのためには夏季手当の満額回答が一番だ』

『要求額は決して無理な額ではない。業務は増え自分たちは苦勞しているにも関わらず賃金だけは赤字だからと下がっていくことに納得できない』

『赤字で苦しいのは会社だけではない。社員の生活苦にも会社は目を向け日頃の苦勞に報いるべきだ』

など組合員の切実な声が多く出されている。しかし、この間の団体交渉での会社の回答は、経営の厳しさばかりが強調され、生活実感に対しては「個別の事案で一概には述べられない」と組合員の声に対して向き合わない回答がされている。

4月の鉄道営業収入は前年比214.4%であり、5月の鉄道営業収入においても前年比164%と昨年とは状況が大きく異なる。コロナ禍であっても「変革2027」の実現を目指した施策に組合員は向き合い、社会的使命を果たすため毎日鉄道の運行を担い、変異ウイルス感染拡大の不安の中で「生活と家族を守る」ために働いている。さらに、昨年の夏季手当や年末手当が大幅に削減され、定期昇給も下げられるという厳しい生活にも耐えている。組合員の生活実感は「コロナ禍だから仕方ない」「赤字だから仕方ない」では納得出来ない状況まできている。そのような中、2年連続の赤字を生み出さないため、JR 東労組秋田地本の運動方針として「購買拡大・乗車拡大」を推し進め、黒字経営を目指そうと議論し取り組んできた。結果、多くの組合員が自分にできることを実践し、会社の収入に貢献することを通じて、夏季手当を堂々と要求する根拠も明確にしてきた。

組合員のみなさん！

私たち労働者は生活をするために働き、生活維持・向上に必要な賃金を会社に要求している。

私たちは労働組合として、会社発展に向け組合員が出来ることを議論し、「JREU plus 運動」を掲げて地道に努力してきた。「申14号2021年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ」を自らの要求として捉え、交渉の力の源は紛れもなく職場からの運動であり、組織の発展に他ならない。「このままでいいのか！」という怒りをバネに全組合員で要求実現に向け決起しよう！

今こそ団結の時だ！！

2021年6月10日  
東日本旅客鉄道労働組合  
秋田地方本部執行委員会

労働者の分断を許さず  
職場から東労組運動を推し進めよう!!

申14号「組合員と家族の生活確保とモチベーション維持・向上を求める  
2021年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ」

団体交渉は、明日6月11日8時からに決定!!